

最 新

唱 歌 教 科 書

(伴 奏 附)

湖上の月

Allegretto.

First system of musical notation, featuring a vocal line and piano accompaniment. The key signature is two flats and the time signature is 8/8. The tempo is marked *Allegretto*.

Second system of musical notation, featuring a vocal line and piano accompaniment.

Third system of musical notation, featuring a vocal line and piano accompaniment.

Fourth system of musical notation, featuring a vocal line and piano accompaniment.

First system of musical notation on the right page, featuring a vocal line and piano accompaniment.

Second system of musical notation on the right page, featuring a vocal line and piano accompaniment.

Third system of musical notation on the right page, featuring a vocal line and piano accompaniment.

Fourth system of musical notation on the right page, featuring a vocal line and piano accompaniment.

卒業の友を送る

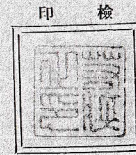
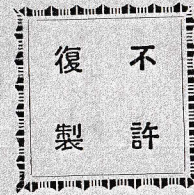
mf

トソロロニ
モヨハシ
にノ
カノキ
ゼのキ
モナニ
タヒタ
アツア
シキシ
ノキン
キカナ
ニハ
ニハ

ルカチ
アミタ
ハチコ
モヨロ
トシミ
イモキ
ニヨバ
コロラ
コヒア
ヤヨモ
イモリ
イモチ
テシキ
ミにケ
ゲレズ
ハナシ
メロ

ハハ
イモタ
ハハ
イモタ
ハハ
イモタ
ハハ
イモタ
ハハ
イモタ
ハハ
イモタ
ハハ
イモタ
ハハ
イモタ

昭和貳年三月二十日印刷
昭和貳年四月一日發行



編 纂 者 若 狹 萬 次 郎

印 刷 者 山 中 壽 一

印 刷 所 大 阪 市 東 區 北 濱 三 丁 目 二 〇 番 地 一 山 中 金 龍 堂

發 行 所 大 阪 市 西 區 北 堀 江 通 一 丁 目 日 本 樂 器 製 造 株 式 會 社

代 表 者 刀 原 四 郎

定 價 金 壹 圓 五 十 錢

○落花

ひらひら ひらと 散るよ
いづこにゆくらん さくら花
語らず いはず
流れに うかびて

○田植 犬童 球溪

ゆくか。

一、新緑の若葉の茂れる鄙には

田植の菅笠涼しき歌聲
裳裾をぬらすも御國のみ爲ぞ

歌ひて植わよや筋目も正しく。

二、父母兄弟もろとも歌ひて

嬉しく楽しく植わたる玉苗
豊けきみのりを今より見するか
葉毎に宿せる夜露の白玉。

○螢

一、軒端 きよき 夕月
宿す 露か 螢火
水に 影を うつつして
葉影 涼し 短夜。

二、白雨 はれし 夏の夜

蛙 なげる 田面を
ちかり ちかり 光かるは
螢の やみに 飛ぶなり。

○夏の黄昏 山崎 紫泉

一、青葉若葉の 風そよぐ
小川の堤にさまよへば

ゆかしき香 ホロ／＼と

夕やみもれてながれ来る

二、かすけきみ空の星かげに

螢のかがり火うつろひて
笑ふや やさし卵の花の

香るやゆかし夏のよひ。

○湖上の月

一、浮べし小舟の棹をおきて
舳たゞき唱歌うたへば
其聲遙けく空にひゞき
雲居の月にも通ひゆかん。

躍れる小魚のかけも見にて
鏡と見する湖の面に

黄金の波を千々に砕く

二、又なき良夜と笛をとりて

好める曲調月にふけば

其音は清けく四方にひびき

岸べの村にも通ひ行かん

操つる水棹の雫おちて

鏡と見する湖の面に

白玉真玉千々に砕く。

○夏の夜

一、なはてそひて 風は吹き
青葉しげり 香りみつ
仰ぐほるか 色もこく
瑠璃のみ空 雲はたへ
空にみつる 星はみな
きららきらら ひかるなり
涼しき夜夏は来ぬ たのしき短夜や
夜あそぶ夏は来ぬ たのしめ夏の夜
二、水はみちて 川に田に
うたふ蛙 ふしもよし
雲井の夜に なきてとぶ
聲もゆかし ほどゝぎす
たびのやぎに 夢をたち
ほどゝたゞく くひなごり
おもしろき調べなり 楽しき夏の夜や
おもしろの夏は来ぬ 楽しめ夏の夜。

○夜の歌 犬童 球溪

一、夜の帷あたりをこめて
月かげ幽に木の間をり来る
静けき夜や
遠くひゞく妙なる小箏
誰にきけよの誰れの調べか。
二、里も森も静に更けて
星かげきら／＼み空にまたゞく
淋しき夜や
遠き彼方笛の音ひゞく
誰れにきけよの誰れの調べか。

○故郷の山河

一、麗朗の日かげに花は咲けど
故郷思へば心わびし
父母兄弟つがはなきか
夢にも見ゆるよ故郷の小山
名残を惜しみて別れし春は
再び此身にめぐり来る

○波路の彼方 犬童 球溪

一、黄金色そめし 遙けき海原
静かに暮れそめて 夕日は沈むか
思へばなつかしや 波路の彼方の。
二、心はこばさや わが胸しら波
戀しきふるさとの 母ます磯邊に
思へばなつかしや 波路の彼方の。